サンゴ礁の海

大方洋二
Yoji Okata

生きるための知恵くらべ

いきるためのちえくらべ

ヤドカリは甲殻類で、エビの仲間です。
エビの仲間は、いろいろな生き物から獲物として狙われます。
それを防ぐ意味で、ヤドカリは貝殻を棲み家に選んだのです。
しかし、その棲み家も、
貝殻をかんたんに壊してしまうタコなどには通用しません。
そこで、
毒針のある細胞をもつイソギンチャクを岩からはがし、
貝殻に「移植」したのです。
こうすることでタコからも狙われずにすむようになりました。

イソギンチャクの利点は、移動できるようになったことです。
日当たりのよいところにも移動できるため、
体に共生する藻類の光合成が活発になり、養分がより多く得られるのです。

DO NOT COPY

いくつものイソギンチャクをつけて歩くソメンヤドカリ。こうした行動をとるのはソメンヤドカリとサメハダヤドカリの２種だけ。この２種のヤドカリが選ぶイソギンチャクはベニヒモイソギンチャク１種のみ。

巣穴の上でホバリングする共生ハゼのクサハゼのペア。テッポウエビが砂を運んでいる。

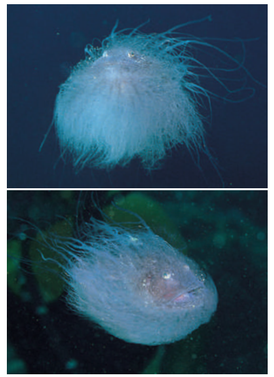
共生ハゼのヤシャハゼとコトブキテッポウエビ。排泄物もエサにしているため、肛門を刺激して催促しているのかもしれない。

DO NOT COPY

クラゲになりきる魚

沖縄県座間味島の海の中で撮影中、クラゲが漂っていました。よくあることなので、そのまま通りすぎようとしたとき、クラゲがぼくを見たのです。びっくりしてもう一度見てみると、寒天のようなフサフサの中に顔があったのです。それで魚だとわかりましたが、これまで図鑑でも見たことがないのできっと新種だと思い、あらゆる角度から撮ったのです。その後採集し、標本にして魚類学者に調べていただきました。1983年のことです。

2年後、アンコウ科ヒメアンコウ属の新種ということが判明し、ミノアンコウと命名されました。昔の雨具の蓑に似ているからだそうです。この蓑は幼魚の特徴で、成魚になるとなくなるようです。天敵の目をあざむくため、幼魚時代はクラゲになりきっているのでしょう。これも生き抜くための知恵です。不思議なことに、ミノアンコウの成魚はいまだに発見されていません。



顔があるクラゲのようなミノアンコウ。幼魚は浮遊生活をするので、フサフサの皮弁が役立っているようだ。

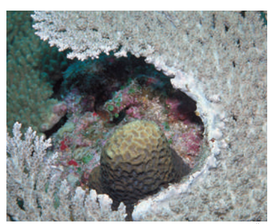
共同捕食

海底の小魚をエサにする肉食魚もたくさんいます。しかし小魚も警戒し、そう簡単には捕食できません。そこで肉食魚同士がタッグを組むことがあります。割り合い多いのがカスミアジとキツネフエフキ、カスミアジとマルクチヒメジの組み合わせです。ところが、インドネシア・コモド諸島のクリスタルロックでは、カスミアジとキツネフエフキとマルクチヒメジの3種で行動するのです。マルクチヒメジがアゴヒゲをサンゴの隙間に入れて小魚を追い出すと、他の2種は近くの小魚を素早く捕食します。小魚は多くの敵があらゆる方向から来るので、パニックをおこします。それが狙いのようです。3種の肉食魚は協力し合っているように見えますが、それぞれマイペースなだけです。1種より効率よく捕食できるため、集まるようになったのでしょう。実はこの共同捕食は、なぜかコモド諸島のクリスタルロックのポイントだけでしか見られません。

サンゴの縄張り争い

何種類ものサンゴが幾重にも重なって競い合っている。イソギンチャクは覆いつくされそうだが、がんばっている。イソギンチャクに棲んでいるのはハマクマノミ。

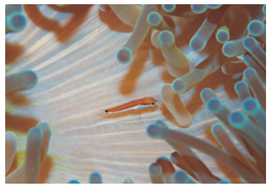
サンゴ礁には、いろいろな種類、さまざまな形のサンゴがあります。どのサンゴも成長するには太陽光が欠かせません。成長が速いサンゴがおそいサンゴに覆い被さることもあります。すると成長できないどころか、死んでしまいます。そこで被さってくるサンゴに対して、特別な触手を出して攻撃します。すると相手がよけて成長するので、おもしろい形になります。イソギンチャクも太陽光が必要なため、サンゴと縄張り争いをしますが、覆い被せられそうな場合は、移動して難を逃れることができます。



テーブルサンゴとノウサンゴの仲間の争い。成長が速いテーブルサンゴに対してノウサンゴは、特殊な刺胞で攻撃して、覆われないようにしている。

イソギンチャクにたよって

イソギンチャクの触手には毒があり、クマノミ以外の魚は刺されてしまいます。しかし、よく見ると小さな魚が触手のそばにいて、ゆれる触手をさけながら泳いでいることがあります。コガシラベラやキンセンイシモチの幼魚、ニセモチノウオなどです。イソギンチャクのそばにいれば、外敵が来ないことを知っているようです。触手に触れないように注意する必要はありますが、外敵に気を配ることよりは楽なのでしょう。たとえ触手に触れても少しであれば命にかかわることはありません。長い間には毒になれていくのかもしれません。



センジュイソギンチャクのそばで休むコガシラベラの幼魚。

センジュイソギンチャクのそばで休むニセモチノウオ。

センジュイソギンチャクの触手をさけながら泳ぐキンセンイシモチの幼魚。

DO NOT COPY